

● 市の国際化に貢献するJET —— 北海道滝川市

当市は、北海道のほぼ中央、札幌市と旭川市の中間に位置し、人口約4万人。石狩川と空知川に挟まれた平野部に広がり、地理的条件に恵まれた交通の要衝として、中空知地域の中心として発展しました。

滝川市

当市のJETプログラム活用の歴史は長く、JETプログラムの発足当初（1987年）から外国語指導助手（ALT）を採用し、3年後の1990年には国際交流員（CIR）を配置しました。今まで、延べ11か国78人のJETプログラム参加者に当市の国際化に尽力いただいています。

現在、英語圏（米国5人、シンガポール1人、フィリピン1人）のALT7人と、モンゴル語圏2人、英語圏1人（米国）、中国語圏1人（米国）、計4人のCIRが活躍しています。

欧米に偏らない広い視野を持った人材育成を目指し、2011年に非英語圏となるモンゴル人CIRの任用を皮切りに、2015年には、中国語を話せる人材として、シンガポール人CIRとALTを1人ずつ任用しました。そして今年度から、イロカノ語を母語とするフィリピン人ALTが加わりました。当市のフィリピン出身の方々にも協力を得ながら、フィリピンの伝統料理や遊び、生活習慣など自国文化を紹介し、学校だけでなく、地域住民との橋渡し役を担っています。



世界の料理教室講師



地域イベントで「国際屋台」を出店



「ウィンターファンデー」参加者と共に



語学講座の様子

当市では、次年度から始まる学習指導要領の改定に向け、全小学校に6人のALTを配置しています。これまでCIRが定期的に市内保育所を訪問し、幼児期に物怖じすることのないコミュニケーション能力の素地を養うことに努めた結果、児童の学習意欲が向上しており、英語に親しむ土台が形成されてきました。



チーム・ティーチング授業

併せて、小学校においては、英語の専科教員による指導の下、学級担任がALTと協働しながらチーム・ティーチング体制を構築しています。

文武両道を誇る市立高校

市立滝川西高等学校には、現在2人（1人はシンガポール出身）のALTが配置されると共に、米国の高校と姉妹校提携、スウェーデンの高校と教育交流提携を交わし、相互に短期留学生の派遣・受入れを実施しています。日常的に英会話ができる環境を整え、聞き手、読み手、話し手、書き手というさまざまな立場から、英語をコミュニケーションツールとして駆使できる人材輩出を目指しています。



滝川西高校生徒の新聞記事

市内で活躍するJET経験者

ALTの多くは、大学卒業直後に来日し、社会経験が少なく、教育の専門家ではありません。慣れない外国での生活にストレスを抱えていることも多く、毎月、ALTミーティングを実施し、各学校の授業方法や教職員とのコミュニケーションに関する困りごと、生活面や冬期間の住宅トラブル等問題解決に努めています。また、(一社)滝川国際交流協会等と連携し、JETプログラム参加者の趣味や特技、好奇心を掻き立てることができるような機会を設けています。

小学校での英語教科化を見据え、昨年度、5年間のJETプログラムを満了した米国人ALTを、市費ALTとして継続雇用し、これまでの経験を基に、発達段階における言語学習能力への理解や、子どもたちのつまずきやすい点などを後輩ALTと共有し、各校の授業に還元されています。

当市の特徴のひとつとして、外国の方々にとって居心地の良い環境である点が挙げられます。事実、5年の任期満了後、そのまま市内で生活されている2人のJET経験者の内の1人（元モンゴル人CIR）は、(一社)滝川国際交流協会の正規職員として、そして、もう1人（元米国人ALT）は、地元の英会話学校職員として活躍しており、当市にとって貴重な“人財”となっています。



小学校の階段

ホストタウンとして新たなステージに挑戦

当市では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会ホストタウンとして、アルゼンチン共和国パラカヌー選手団受入れの準備を進めています。幸いなことに、スペイン語が堪能なALTのお陰で、気運が盛り上がり、他のALTについても、札幌市での開催が決定したマラソンおよび競歩競技での通訳ボランティア等、4年に一度のスポーツの祭典を体感できる機会を楽しみにしています。

終わりに

地方都市であっても、外国の方々を身近に感じ、多文化共生社会を意識できるのは、JETプログラムを活用してきた成果であり、優秀なJETプログラム参加者は当市には欠かせない存在となっています。